

## 13. 高知県立大学県民大学学生プロジェクト「立志社中」の採択と活動

### 1) 健援隊プロジェクトの活動

健援隊は、立志社中プロジェクト開始当初から設立され、今年で6年目の活動となった。これまでの努力により、組織が拡大し、活動内容も多岐にわたってきた。一方で、学生によるマネジメントの難しさや参加学生の帰属意識の低下といった課題がみられた。このため、今年度から、組織を目的別に3団体に分け、それぞれに指導教員が付き、活動を行った。Alpha チームは、発足当初からの中核活動である、AEDの使用など救命法の知識の普及を目的とした活動を行い、日曜市やスポーツイベントを中心に活動した。Bravo チームは、特定の集団に対する継続的な関りを目的に、香美市物部町神池で活動を行い、活動に際しては、香美市からの助成を頂いた。Charlie チームは、南国市の助成金を基にして、南国市の保育園で幼児に対する健康習慣の獲得を目的に活動を行った。3チームを合わせて、約80人の学生が参加し、地域の中で学びを深めることができた。

今年度の活動の中で、平日に活動を行ったことにより、学業に影響を与えることがあり、今後活動場所との調整を事前に十分に行っていく必要がある。また、取り扱う内容や活動場所に関しても対象になる方々のニーズを的確に捉え、検討していければと考えている。

### 2) いけいけサロンの活動

「いけいけサロン活動」は、看護学部1回生12名、2回生5名、3回生5名、4回生4名の計26名で活動する結成5年目のチームである。このチームは平成27年5月、「地域の高齢者の方と一緒に交流したい」という看護学部学生と、住民の方の声があがり、「地域サロン」を立ち上げたことで開始された。活動地域は高知市池地域である。

令和元年度は、活動目的「みんなで楽しく心地よく過ごす」のもとで、毎月の地域サロン活動、知り直し活動の継続、災害に関する活動を展開した。平成30年度までの4年間の活動を昨年度総括したことで、学生は、1回1回の活動で地域の方にお会いできる機会を大事にして丁寧な展開をしたいと考えていた。3つの活動をとおして、活動地区に対して、「知っている池地域」が「住民の方との会話が理解できる池地域」として捉えられるようになり、それによって地域の困りごとの発見ができるようになった。合同災害訓練を活用した調査で、池地域の災害時の避難所生活を考えるなかでペットの問題が浮かび上がり、今後町内会で検討したい内容を発見し地域にお返しできた。さらに今年度は、中間報告会での評価をもとに、5年間の活動成果を整理する目的で、「5年間のいけいけサロン活動は、池地域の皆さんとどのような関わりをしてきたか」の可視化に挑戦した。学生は地域でどのような役割を持つ方と関わっているか、その関わり方の手段と関わり方の程度およびその成果を、地図を使ってマッピングし、池地域の4地区ごとに、整理することができた。その結果、なぜ自分たちが住民の方との活動を続けていくことができていくのか、について学生の観点から考察することができた。次年度は、この分析結果を生かした活動を企画する予定である。今まで地域の方一人ひとりとながってきた学生が、地域とつながりを持ち地域の課題解決にかかわらせていただく展開を支援したい。

### 3) 「立志のたまご」グローバルクラブの活動

令和元年度後期に「立志のたまご」として採択されたグローバルクラブは、看護学部学生が、「高知県に在住している外国人の方達もつ課題を一緒に考え、安全で快適な高知での生活を支えるような取り組みをしたい」という目標を持って、活動を始めたものである。その活動によって、①外国の方が高知県在住の学生との相互理解を深め、ネットワークができる、②高知で外国の方が安心して暮らすことのできる環境づくりにつながる、③学生が外国の方との国際交流を通してグローバル力をつける、④将来的に、新たに外国の方が高知に来てくれるような呼び水になる、という効果を期待している。

令和元年度は、高知で生活する外国の方の実態について高知県国際交流協会・高知県国際交流課に伺って情報収集したり、実際に外国から来られている方に生活・健康に関する困りごとについてインタビューを行ったりする中で、今後アプローチしていくコミュニティおよび課題を明確化することとした。そして、予防的保健行動についての知識・理解・情報が十分でない対象者への健康講座や、災害時にパニックにならない対応についての知識普及の必要性があるのではないかと考えるようになっている。

メンバーの学生は自主的に活動するために、自身の英語コミュニケーション能力向上に努め、また、国際的な出来事への関心を持ちグローバルな視点を養うことにも努めている。令和2年度からは、「立志のたまご」から「立志社中」の活動へと継続・発展させていけるよう教員が支援していく予定である。